



心ひとつに

美郷中学校
 学校報 NO.44
 R3. 11. 19

鴻鵠の志 講演会

15日(月)午後、本校体育館を会場に「鴻鵠(こうこく)の志」講演会が行われ、本校生徒と、町内3小学校の6年生が参加し、大小島真木さんのお話を聞きました。この講演会は、東大総長を務めた佐々木毅(たけし)さんの基金を活用して行われるものです。

ご承知のとおり、大小島さんは、本校体育館や3小学校にある壁画の作者であり、顔なじみの児童生徒がたくさんいます。また、中学校2・3年生の美術の教科書に掲載されるなど、国内外で活躍されているとても素晴らしい方です。この日は「生命の螺旋(らせん)、絡まり合う生と死を通して」という演題で、自分の考えや作品等について、詳しくお話しをしてくださいました。



【「講演前」と「講演後の質疑応答」の様子】

生徒の皆さんの感想を紹介します。

○1年生

- ・これからは、一つ一つの生き物を大事にして、自分も他人も肯定できるような人になりたいです。
- ・自分の得意なこと、好きなこと、自信があることを使って仕事ができるって、とてもすてきなことなので、私も将来、自分の自信があることで、好きなことでできる仕事につきたいです。
- ・「辛い時や絵を書けなくなった時、どうするんですか?」という質問に、真木さんは「挑戦する」と言っていて、ハッとしました。すごく納得しました。これからどんなことがあっても真木さんのように挑戦し続けたいです。

○2年生

- ・大小島さんが言っていたように、世界は知らないことばかりで、つまづく時もあるけれど、間違えたら自分の心をきりかえて、明日の朝、もう1回がんばればいいということを胸に、生きていこうと思います。
- ・「自分のできることを続けるだけではなく、自分のできない事に挑戦し続ける」という言葉に心が動かされました。そして、自分もずっと挑戦していこうと思いました。

- ・質問に対して「過去にあったことは、もう、もどせないから、前を向いて進む!」と言っていて、すぐに後悔する私は、心に響きました。これからは、少しでも前向きに生きたいです。

○3年生

- ・僕も若いうちに、たくさんのことにチャレンジし、たくさんの失敗をし、強い男になって、大人になった時に、あの時がんばったから、今があると思えるように、残り限られた学校生活を全力で生きていきたいと思います。
- ・大小島さんのように、好きな分野で楽しく活動していることに憧れをもちました。私も将来、好きなことをやって生きたいです。
- ・今回の講演で、命について色々と考えさせられたので、この経験を生かして命を大切に生きていきたいです。

□鴻鵠の志とは…

史記：「燕雀(えんじゃく)安(いずく)んぞ鴻鵠(こうこく)の志(こころざし)を知(し)らんや」

意味：つまらない人物には大人物の遠大な志はわからないということ。「燕雀」は、「つばめ」と「すずめ」。「鴻鵠」は、「おおとり」と「くぐい」という大きな鳥。小さな鳥に、どうして大きな鳥の心がわかるだろうか。

全校 応援練習

18日(木)6時間目、全校生徒が体育館に集合し、応援練習を行いました。コロナ禍のため、延期されていた応援練習でしたが、県内の感染状況から判断し、この日の実施となりました。密を避けるため、1年生は2階ギャラリーから、体育館フロアで応援練習を行う2・3年生の様子を見学し、声の出し方等を学びました。

3年生の様子を見てみると、笑顔で、楽しそうに、体全体を使って声出しをしていて、ずっと、この日を待っていたこと。思いっきり、大きな声を出したかったことなどを感じさせられました。ずっと、先輩から後輩へ継承されてきた応援練習が実施でき、ホッとしているところです。



【体全体を使った伝統ある応援練習!】